

平成24年度
実施事業

事務事業名 児童虐待防止啓発事業

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	2	児童虐待の防止
小分類	1	児童虐待防止の推進
主要な施策	1	①児童虐待の予防、早期発見
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 23 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名 保健福祉部 グループ名 子育てグループ

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	子どもへの虐待に対する関心と理解を訴えることにより、地域がひとつになって子どもの安全を守ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	市民一人ひとりが子ども虐待に意識を向けるよう啓発活動を行う。 〔事業実績〕 ○広報紙・ホームページを利用した啓発 ○民生委員・児童委員との懇談会の開催 ○町内会へのチラシの配布 ○オレンジリボン運動の展開 ・懸垂幕の掲示 ・たすきリレーマラソンの実施
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	子どもの虐待防止を市内全域に喚起し、家庭・学校・地域がひとつになって子どもを虐待から守り、子どもが安心して過ごせる地域社会を目指す。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円	0	0	0	0	0
道支出金	名称	千円	573	424	475	475	475
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円	0	0	0	0	0
一般財源	名称	千円	0	0	0	0	0
事業費 合計			573	424	475	475	475

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果指標	① 要保護児童の発生数	人	目標値	30	25	20	15	10
			実績値	25	23			
	②		目標値					
			実績値					

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
子どもへの虐待が社会問題と大きく取り上げられた以降においても、全国では子どもが虐待によって尊い命を落とす事件が後を絶たない。	虐待はいつでも、どこでも起こりえるという認識に立ち、啓発の取り組みを継続する。	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 自治体には子どもの安全を守る責務があり、子どもを虐待から守るための啓発活動は必要である。
	<input type="radio"/>	② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	<input type="radio"/>	③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	<input type="radio"/>	④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 子どもが安心して過ごせる地域社会の実現は、市民の等しい願いである。
	<input type="radio"/>	② 市民アンケートの結果から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 事業費の全額が補助されている。
	<input type="radio"/>	② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	<input type="radio"/>	④ 将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/>	① 成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 家庭における子育て機能の低下が憂慮されている状況で成果の把握は難しい。
	<input type="radio"/>	② 市民、団体等の声から成果を感じられる	
	<input type="radio"/>	③ 目に見える形で成果があがっている	
	<input type="radio"/>	④ 成果の把握は困難である	

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	子ども虐待防止を市内全域に喚起し、家庭・学校・地域がひとつになって子どもを虐待から守り、子どもが安心して過ごせる地域社会を目指すため、継続した取り組みが必要である。
-----------	----------------------	--

②行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考	
-----------	----	--

③総合的な評価（当該事務事業の方向性） 《Action》

維持	備考	
-----------	----	--

〔評価区分〕

- ◆拡大（事務事業の目的を達成するために事業の規模や経費の大幅な変更が必要な事業）
- ◆維持（事業内容の根幹にかかわる部分については変更せず、不断の点検・検証による効率的な経費の活用や軽微な見直しを行い、継続的に実施する事業又は、事業計画等で予め年次的に実施する事業内容等を定めており、実施年度によって経費や実施箇所等に変更が生じる事業）
- ◆改善（当該事業の目的を達成するために、現状の手段や経費、事業の方向性等、事業の根幹に関わる部分について見直す事業）
- ◆休止（暫定的に休止する事業）
- ◆廃止（事業の開始当初から目指していた成果が得られたなど、目的が達成された事業）
- ◆終了（事業の開始当初から予定していた事業期間が終了した事業）